

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成 「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)自分を愛し、夢を語り、主体的に行動する児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)地域から信頼され、自校に誇りがもてる学校
----------	---------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎主体的・対話的な深い学びへつながる授業づくりを通し、自ら考え学びあい、課題を解決する力の育成	○算数科を中心とした授業改善 ・主体的・対話的で深い学びとなる授業づくり ①「数学的な見方・考え方」を育む授業づくり ・内容・指導のポイント、発問、児童の姿を整理し活用 ②資質・能力「コミュニケーションスキル」「課題解決力」「協働性」を育む授業づくり ・資質・能力をキャッチフレーズにし、授業の中での価値づけ ③ノート指導とポートフォリオによる学びの自覚(個・集団)	☆算数科単元末テスト ①授業評価表 「授業の中で児童に価値づけたい数学的な見方・考え方を顕在化させるきっかけとなる発問であったか」肯定的評価 ②授業評価表 「資質・能力(キャッチフレーズ)を授業の中で価値づけていたか」肯定的評価 ③資質・能力に関する算数科ポートフォリオにおける肯定的評価をした児童の割合	☆80%	☆86%	☆81%	☆101%	①指導案を改善し、「数学的な見方・考え方」を授業において意識できるようにした。しかし、実際の授業では、練り合い場面において、「数学的な見方・考え方」を子ども達から引き出すような発問が不十分であった。 ②資質・能力を授業の中で意識させることは、この1年間で大きく向上している。それは、研究授業等を通して、お互いが学び合った結果だと考える。特に、カード等の使用は効果的であり、1年間を通して授業の中で資質・能力を価値づけることができた。しかし、手段としてのキャッチフレーズが目的化している傾向がある。 ③クラス全体としての資質・能力は高まり、クラス全体で授業をつくっていきこうとする風土ができてきた。しかし、個人的な評価としては、まだ低い児童がいる。	①研究授業の在り方を改善していく。互いに授業を見合う中で、「授業改善OPPA」を作成し、進捗度を確認しながら改善を図る。単元の「数学的な見方・考え方」を確認し、明らかになった課題について継続した授業改善に取り組む。 ②資質・能力を発揮した具体の姿をもう一度全職員で共有化する。対話の質の向上を図り、自分たちの考えを出し合い、練り合って解決していく力を育む。 ③全体の場合、グループ、ペアでの効果的な話し合いの仕方について学び合い、授業の中で対話的な話し合いができるようにする。そのためにも、まずは、安心して話すことができる学級づくりをしていく。	○			・子どもの実態に応じた課題、個を大切にしている指導をしてほしい。そのため、個人思考の時間を大切にしたい。 ・主体的・対話的な深い学び合いになるために、子ども同士の学び合い(対話)を大切にしたい。 ・発問…という表現は、教師が授業を引っ張っていくイメージにつながる。
豊かな心の育成	潤いと落ち着きのある児童の育成	◎目標に向けて本気で挑戦し、仲間とともに粘り強くやりぬく児童の育成	①本気で挑戦し、やりきる学級・学年・児童会としての意識を高める集団づくり ・学校生活と関連付けた目標設定と振り返り ②縦割り班活動の充実を図り、相互に高め合える関係づくり ・縦割り班ごとの目標設定 ・縦割り班掃除の振り返り	①児童会の月目標の振り返りで肯定的評価をした児童・教師の割合 ②縦割り班活動の振り返りで肯定的評価をした児童・教師の割合	①② 90%	①92%	①94%	①104%	①リモートを活用した児童朝会を開催したことで、多くの児童が生活目標を意識するようになった。また、教師アンケートからも日々の指導の中で意識していることが分かる。しかし、一部の児童の高まりに課題がある。 ②縦割り掃除だけでなく、縦割り班遊びも取り入れたことで、目指す集団を意識することができている。(児童96%、教師87%) また、一生けん命掃除を行っている児童は、97%であった。しかし、すみずみまで掃除をすることに課題がある。	①今後も児童会活動を中心に、児童の意識を高めるとともに、課題ある児童に対し個別に支援を行う。 ②継続的に縦割り班遊びを実施することで、目標を意識し相互に高め合える関係づくりを行う。また学年を越えて仲間としてかわり合って成長できるよう縦割り班活動の充実を図る。	○			・コロナの禍で活動が制限される中、限られた活動範囲内で工夫して取り組んでいる。 ・掃除だけでなく遊びを取り入れたことは、有効的である。 ・今後も引き続き、継続的な取組を行ってほしい。
健やかな体の育成	生涯にわたり心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための基礎的実践力の育成	○自分の健康に関心を持ち、健康課題を自ら解決していこうとする児童の育成	①体育の時間や休み時間での体力向上を目指した取組の推進 ・体育の授業の工夫(走の運動の推進) ・瞬発力を高めるためのサーキットトレーニング ②日常的な生活習慣指導の実施 ・手洗い・うがい、消毒の徹底	①走力テスト(50m走)において、前回比で向上した児童の割合 ②生活アンケートにおいて、肯定的評価をした児童の割合	①②80%	①71%	①80%	①100%	①瞬発力が高まっている児童が多いことが分かる。新型コロナウイルスの影響で学校での体育の内容が制限される中、外遊び週間や3密を避けつつ運動量を確保した体育の学習を行ったことで、児童の運動する機会が年度初めより増えた。 ②時間を決めて放送(音楽)を流すことで、学校での手洗い・換気の定着につながった。	①より一層体育科の授業改善を行うために、研修を行い、組織的に取り組んでいく。また次年度は、体力テストの結果を基に分析し、児童の全体的な体力向上に努めていく必要がある。 ②手洗いや換気の目的を考えさせることと朝・大休憩・昼休憩・給食前後の手洗いを啓発する放送や掲示をさせることを通して、習慣化を図る。	○			・今後は、全体的な体力向上に向けて取組を行ってほしい。 ・コロナウイルス感染者だけでなく、インフルエンザ感染者数も0人であったことは、効果があったといえる。 ・工夫した活動が今後も充実できるようにしてほしい。
信頼される学校	保護者・地域から信頼される学校づくりと自律的な経営	○保護者・地域との積極的な連携と情報公開 ○教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	①機をとらえた情報発信 各種通信の発行とホームページのアップ ②対話の充実 保護者、地域、関係機関との連携 ③積極的な働き方改革 ・定時退校日の実施 ・業務改善のための熟議・改善	①月1回以上の学年通信発行とホームページのアップ ②保護者アンケートの肯定的評価の割合 ③時間外勤務月平均45時間以下の教職員	①100%	①100%	①100%	①100%	①各学年月1回以上の学年通信の発行とホームページのアップは、前回の評価時同様継続してどの学年でも実施できており、積極的な情報公開を行うことができています。 ②保護者アンケートの結果、肯定的評価の割合は92%であった。否定的な保護者の意見として、「学力低下への不安」「子どもの様子が分からない」といった内容が挙げられた。肯定的な意見としては「子どもをよく見て下さり感謝している」といった意見があった。 ③1月のトータル表では、2名以外、時間外勤務月平均45時間以下であった。火曜日を早日程にしたことや会議の精選、そして部での取り組みの強化が結果につながった。	①来年度も、「情報を積極的に発信し、保護者との連携を密に取ろう」という教職員集団の意識を高めていけるよう、学年部の連携を強化して行動できる組織づくりを推進する。 ②来年度も保護者や地域との対話を充実させるために、日々の連携を大切にすると共に早期発見早期対応に向けた積極的な生徒指導を推進することができるように、組織として子供の課題に向き合っていく。 ③今年度の取組を継続しつつ、校務運営システム活用による業務改善をさらに進める。	○			・コロナ禍において様々な制約がある中、積極的に情報公開することができている。今後も保護者の思いに寄り添った取組を、組織として取り組んでほしい。 ・教職員という仕事において業務改善の実施が厳しい現実にあることは理解できる。今後も業務の Slim 化に向けて、可能な範囲での簡素化に取り組んでほしい。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60
【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。